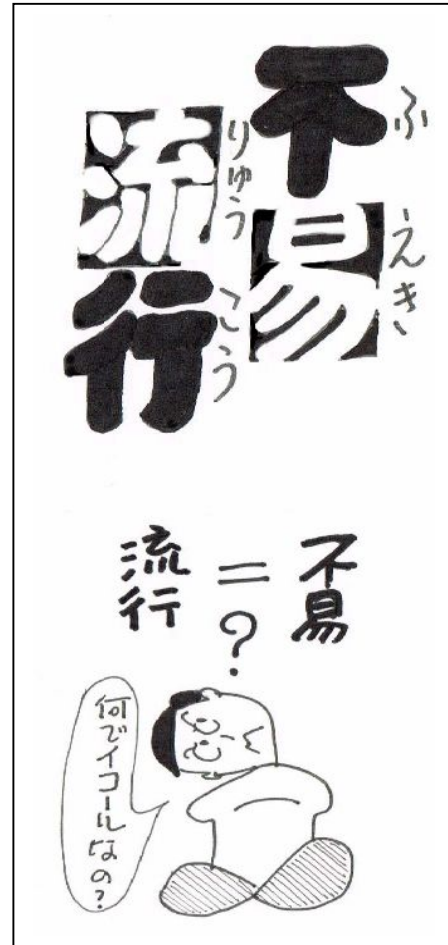


先週のお返



四字熟語には、いろいろなパターンがある。一石で二鳥、単刀で直入。○○を○○には、一世を風靡、初志を貫徹。○は○○には、佳人は薄命、君主は豹変。○○の○○には、内股に膏藥、窮余の一策。いつまでやってんだといわれそうなので、花鳥と風月、海干と山干の○○と○○にこの不易流行は仲間入りすると思う。

不易とは変わらないもの。不変。流行は、やはりもの、一時的なこと。

で、かの俳諧の鉄人松尾芭蕉翁が、不易と流行は本質的同質であると宣ったようだ。

鴨居洋子なる女史が、昭和三〇代に女性の下着「スキヤンティ」なるものを開発した。それまでは女性の下穿きは、

ブルマーを代表する、身を守る、保温に徹する、ちらっとでも見られてはいけななものだったが、この方は薄いレースの透けて中身が見える極薄で手のひらに入るほどの生地の少なさをものをパンティーと呼んで、それまでの常識をくつがえし、セクシーという語とともに今でもほとんどの女性が身につけて闊歩している。つまり一時の流行でなく不易(不変)となった。

さらにイギリスの枯れ枝のような少女モデル、ツイツキーなる娘がまとった膝上の腿を露わにしたスカート「ミニスカート」がたまたま一世を風靡した。この今でもめざらしくないミニスカートはやや不易。同じイギリスの四人組ビートルズが来日して旋風を捲き起こしたのは昭和四十一年。これを期に男性の長

髪もやたらと流行ったが、今では社会人でビートルヘアはたまにしか見受けられないので、やや不易よりも流行だった。

その他、スーダラ節の植木等の「サラリーマンは気楽な稼業ときたまんだ」。ビートルたけしの「赤信号みんなで渡れば恐くない」は一時の流行で終わったし、「都民ファースト」なんかは、あつという間に消えた。

わたしがわからないのは、新しさを求めて絶えず変化する流行性と永遠に不変の不易とは本質的に同じである、とする芭蕉翁の言である。不易と流行は正反対に思えるが、そこんところが理解できないわたしは、俳句にちんぷんかんぷんだからなのか。



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。